

子どもが自分で身を守るために!!

近年、全国各地で子どもが犯罪の被害に遭う悲しい事件が後を絶ちません。子どもを犯罪から守るためには、家庭はもちろん、学校、警察その他の行政機関、各種団体、さらには事業者も含めた地域社会を構成する様々な主体が連携して取り組んでいく必要があります。

また、それらの取組に加え、子どもたち自身が犯罪の危険性に「気づき」、被害に遭いにくい行動をとることで、犯罪の被害に遭う危険性を低くすることができます。

ここでは、子どもが自分で身を守るために、子どもが遭遇しやすい具体的な事例と、それらを予防するためのポイントについて紹介します。

具体的な事例

声かけ・連れ去り

- 見知らぬ人が近づき、「困っているから助けて」とか「お母さんに頼まれた」等と言葉巧みに誘い出し、連れて行く場合。
- いきなり「ついてこない」と痛い目にあわすぞ」と言って腕をつかみ、強引に連れて行く場合。



自宅への押し入り

- 帰宅後に自宅ドアを開けたとたん、いきなり見知らぬ人が背後から自宅に押し入ってくる場合。
- 宅急便や訪問客を装って、玄関ドアを開けさせ、自宅に押し入ってくる場合。

わいせつな行為

- エレベーター内などの密室で、いきなり背後から口をふさがれ、抱きつかれるといったわいせつな行為をされる場合。
- 集合住宅の踊り場や公園のトイレ内、人通りの少ない路地など人目につきにくい場所に連れ込まれ、体を触られるといったわいせつな行為をされる場合。



予防するためのポイント

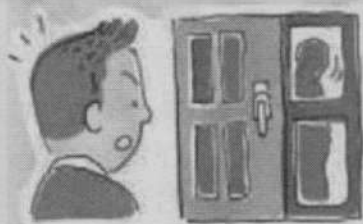
声かけ・連れ去りを予防するためのポイント！

- 車道と歩道が分離されている道や人目のある明るい道、高い塀や茂みなどの死角のない道を複数で行動するように指導しましょう。
- いざという時のために、防犯ブザーやホイッスルを使えるように身につけさせましょう。
また、大声を出すことや防犯ブザー、ホイッスルを使う練習をしておくことも必要です。
- 声をかけられた時は、絶対についていかず、相手から逃げるようにし、万一、腕や手を捕まれ連れ去られそうになった場合は、大声で「助けて」と叫んだり、防犯ブザーやホイッスルを活用するよう指導しましょう。



自宅への押し入りを予防するためのポイント！

- 帰宅した時には、必ず周りを確認し、家人が不在であってもチャイムを鳴らして、「ただいま」と声をかけ、家人がいるふりをするように指導しましょう。
- 子どもだけで留守番中に、訪問客が来た場合には、ドアを閉めたまま、インターホンやドアスコープで相手を確認し、見知らぬ人の場合には、ドア越しに「家の人とは忙しくて出られない」と言い、家人が不在であることを悟られないように工夫しましょう。



わいせつな行為を予防するためのポイント！

- エレベーター内や公園のトイレなど人目につにくい場所へ行く場合には、できるだけ複数で行動し、必ず周りを確認するように指導しましょう。
- エレベーターには、見知らぬ人と乗らないようにするとともに、エレベーター内では各階のボタンが押せる操作盤のところで、壁に背を向けて立つよう指導しましょう。
また、エレベーター内に知らない人が乗ってきたら、次の階で降りるようにし、様子がおかしければ、できるだけ多くのボタンを押して逃げるよう指導しましょう。

